

# 「鴨川市中学生まちづくり議会」開催結果



平成27年7月3日

鴨川市

# 1 日 程

◎開催日時 平成 27 年 7 月 3 日（金）午後 1 時 10 分から午後 3 時 20 分まで

◎開催場所 鴨川市議会議場（鴨川市役所 5 階）

- 1 中学生議員入場
- 2 市長あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 中学生まちづくり議会（議長：鴨川中学校 進藤 愛夏）

<開会>

- ・日程第 1 会期の決定
- ・日程第 2 まちづくりに関する質問・提案

No.	件 名	所 属	氏 名
1	・海岸の美化について ・県道 8 1 号のループ橋工事について	安房東中学校	唐鎌 圭佑 嶋津 大地
2	・市で検討しているユニークなアイデアについて ・公共交通の利便性の向上について	長狭中学校	落合 未来 東 龍希
3	・鴨川有料道路について ・鯛ポイントカードについて	鴨川中学校	渡邊 奏 小林 龍平
4	・天津市街地の歩道について ・教育費の使途について	安房東中学校	吉村 優里 桐木 瞭
（ 休 憩 ）			
5	・子育て環境について ・地域情報の発信方法について	長狭中学校	落合 由理恵 松本 優香
6	・津波対策について ・都市政策について	鴨川中学校	水上 晃希 小畠 未空
7	・働く場所を増やす取組みについて ・安房東中学校の今後について	安房東中学校	小原 茉夕 小菅 希望
8	・観光客の誘致について ・新たな手当の創設について	長狭中学校	渡久山 実咲 永井 浩平
9	・商店街の活性化について ・千葉ロッテマリーンズ秋季キャンプの効果について	鴨川中学校	鈴木 愛菜 根本 海成

<閉会>

- 5 市議会議長講評
- 6 市長 御礼のあいさつ

＊ 上記終了後に「記念撮影」を行いました。

No.	学校名	学年	氏名	性別	備考
1	鴨川中学校	3年	進藤 愛夏	女	中学生議長
2	〃	3年	渡邊 奏	女	
3	〃	3年	小林 龍平	男	
4	〃	3年	水上 晃希	男	
5	〃	3年	小畠 未空	女	
6	〃	3年	鈴木 愛菜	女	
7	〃	3年	根本 海成	男	
8	長狭中学校	3年	落合 未来	女	
9	〃	3年	東 龍希	男	
10	〃	3年	落合 由理恵	女	
11	〃	3年	松本 優香	女	
12	〃	3年	渡久山 実咲	女	
13	〃	3年	永井 浩平	男	
14	安房東中学校	3年	唐鎌 圭佑	男	
15	〃	3年	嶋津 大地	男	
16	〃	2年	吉村 優里	女	
17	〃	3年	桐木 瞭	男	
18	〃	3年	小原 茉夕	女	
19	〃	3年	小菅 希望	男	

(順不同、敬称略)

## 3

## 市執行部及び市議会出席者

市 長	はせがわ たかお 長谷川 孝夫	市 議 会 議 長	たつの としのり 辰野 利文
副 市 長	しょうじ まさお 庄司 政夫		
教 育 長	の だ じゅん 野田 純		
総 務 課 長	まつもと のりよし 松本 憲好	議 会 事 務 局 長	た な か と き お 田 中 時 雄
財 政 課 長	ますだ かつみ 増田 勝己		
企 画 政 策 課 長	ひらかわ きよし 平川 潔		
農 水 商 工 課 長	やまだ いちろう 山田 一郎		
観 光 課 長	まつい ひろのり 松井 寛徳		
都 市 建 設 課 長	ふじご りょうじ 藤後 良治		
学 校 教 育 課 長	しょうじ みつじ 庄司 満治		
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	よしだ ひさし 吉田 尚史		
消 防 防 災 課 長	たきぐち えつお 滝口 悦夫		
子 ども 支 援 課 長	は だ ゆきひろ 羽田 幸弘		
市 民 生 活 課 長	はら いちろう 原 一郎		

(順不同、敬称略)

**○司会**

皆様、こんにちは。これより鴨川市中学生まちづくり議会を始めさせていただきます。

私は本日の進行役を務めさせていただきます、企画政策課の石井でございます。よろしくお願いいたします。

それでは早速、中学生議員の皆様に入場して頂きます。皆様、盛大な拍手でお迎えください。

〔中学生議員入場〕

**○司会**

それでは、始めに長谷川市長よりご挨拶を申し上げます。長谷川市長、よろしくお願いいたします。

**○長谷川市長**

改めまして、皆さんこんにちは。市長の長谷川でございます。本日は、鴨川市の新たな総合計画の策定及び都市計画マスタープランの改定に係る「鴨川市中学生まちづくり議会」を開催させていただきました。

中学生の皆さんには勉強や部活動、その他学校行事に日々お忙しい中、市内3中学校から19名の皆さんにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の議会は、平成28年度から平成37年度までの10年間を計画期間といたします本市の次期総合計画の策定に加え、現



行の都市計画マスタープランの改定に当たり、本市の将来を担う若い皆さんから、まちづくりへの想いや具体的な施策の提案などをお聞かせいただき、それを今後の鴨川市の計画づくり、まちづくりに活かしていきたいと考えています。皆さんが市政に対して日頃感じていることにお答えをすることで、市役所とその仕事に対する理解を深めていただきたい、このような趣旨のもとで開催をさせていただいたところでございます。

さて、私の市政運営の基本的な考え方は、「誰もが明日への希望をもって暮らせる、安全で安心な豊かなまちづくり」でございます。その基本姿勢は、第一に「市民と一緒に考えるまちづくり」、第二に「人と産業と文化の息づくまちづくり」、そして、第三に「10年・20年先を見通したまちづくり」に努めることでございます。折しも現在、地方創生ということが言われております。本格的な人口減少社会を迎える現在、本市を含めた地方は、将来をしっかりと見据え、それぞれの強みを活かした効果的なまちづくりを進めていくことが求められております。全国レベルの集客力、知名度を持つ観光施設、気候・風土に適合した第一次産業の生産基盤、充実した医療・福祉環境やスポーツ施設、そして由緒ある歴史・文化など、脈々と育まれてきた本市の強みを最大限に活用した、活気あるまちづくりを進めて参りますうえで、そのまちづくりの主役とは、まさに市民の皆様であり、こうした中で、皆さん方のような若い世代の斬新な発想力は欠かすことの出来ない大切な財産でございます。

本日の議会には、私のほか、副市長、教育長、その他皆さんからのご提案・ご質問に直接関係する課長も出席をさせていただきました。せつかくの機会でもございます、限られた時間の中ではございますけれども、鴨川市の将来を真剣に考え、遠慮なくご意見をお聞かせくださいますようお願いを申し上げます。

また、大勢の中で緊張をしているとは思いますが、自分の意見だけでなく、他の皆さんのご意見にも耳を傾けて、更に自分自身の視野を広げていただけますと、大変うれしく思います。

結びに、本日の鴨川市中学生まちづくり議会の開催に当たりまして、多大なご尽力をいただきました各中学校の校長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様並びに市議会議場の使用に快諾をいただきました辰野利文市議会議長をはじめ、傍聴席にご出席いただいております市議会の皆様に心から感謝申し上げますとともに、どうか最後までご清聴くださいますようお願いをいたしまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

## ○司会

ありがとうございました。

続きまして、中学生議員 19 名の皆様をご紹介させていただきます。お名前をお呼びいたしますので、ご起立いただき、「はい。」という大きな返事をお願いします。

[中学生議員の紹介]

## ○司会

次に、市執行部、市議会議長並びに市の担当課長をご紹介いたします。

[市執行部・市議会議長・市の担当課長の紹介]

## ○司会

それではここで、本日中学生議長を務めていただく議員をご紹介させていただきます。  
中学生議長につきましては、あらかじめ3中学校で調整を行いまして決定させていただきました。

中学生議長は、鴨川中学校の進藤愛夏議員にお願いします。それでは進藤議員はこちらの議長席にお移りください。

〔進藤愛夏議員 議長席へ移動〕

## ○司会

それでは皆さんご起立ください。一同、礼。

## ○司会

ご着席ください。それでは只今から進藤議長の議事進行によりまして、鴨川市中学生まちづくり議会を始めて頂きたいと思えます。進藤議長、よろしくお願いします。

## ○進藤愛夏議長

皆さん、こんにちは。

私は、鴨川中学校の進藤愛夏と申します。

本日は、鴨川市中学生まちづくり議会の議長を務めさせていただきますので、皆さんのご協力をお願いします。

ただいまの出席議員は全員であります。

よって、鴨川市中学生まちづくり議会は成立いたしましたので、開会いたします。



## ○進藤愛夏議長

これより本日の会議を開きます。

本日の日程は、皆様に配付いたしました印刷物のとおりであります。また、本日の会議の記録につきましては、事務局である企画政策課におきまして、後日「開催結果の要録」としてとりまとめを行うこととしておりますので、併せてご了承をお願いします。

## ○進藤愛夏議長

日程第1、会期の決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。本会議の会期につきましては、本日1日とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

## ○進藤愛夏議長

ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

## ○進藤愛夏議長

日程第2、まちづくりに関する質問・提案を行います。  
通告のありました質問者は、9組18名であります。  
申し合わせのとおり、1組の質問時間は、答弁を含んで10分程度といたします。  
質問者は、登壇して発言を願います。  
これより順次発言を許します。

はじめに、安房東中学校、唐鎌圭佑さん、嶋津大地さん。

〔安房東中学校 唐鎌圭佑議員・嶋津大地議員 登壇〕

## ○唐鎌圭佑議員

私は、安房東中学校3年の唐鎌圭佑です。

私からは、海岸の美化について、質問をします。

鴨川市には美しい海岸線がありますが、その海岸線にゴミが捨てられていることが多くあります。

私は天津の城崎海岸の近くに住んでいますが、美しい海岸で毎年夏になると、多くの海水浴客で賑わいます。しかし、同時に持ち帰られていないゴミが多く見られます。また、条例違反として禁止のはり紙が貼ってあるバーベキューや違法駐車なども見られます。

こうしたマナーの悪い観光客によって、鴨川市の美しい海岸が汚れるのを見ると、とても悲しくなります。そういったものを防ぐ手立てを市では考えているのか教えてください。

よろしくをお願いします。



## ○嶋津大地議員

私は、安房東中学校3年の嶋津大地です。

私からは、県道81号のループ橋工事について、質問をします。

天津から清澄・四方木を通り市原までを結ぶ県道81号で行われているループ橋工事はずいぶん前から計画され、実際に工事が行われていますが、近年では工事が滞り、全く進んでいないのが状況です。そこで、この工事の現在の状況と完成予定がいつになるのかを知りたいです。

また道路工事にはばく大な費用がかかっていると思いますが、この県道81号の工事にはどのくらいのお金がかかっているのでしょうか。この道路が開通すると私にとって非常に便利な道路になります。

よろしくをお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



## ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

〔長谷川市長 登壇〕

## ○長谷川市長

只今、唐鎌圭佑議員からは、海岸の美化についてのご質問をいただきました。

唐鎌議員もご承知のように、本市は、温暖な気候と美しい変化に富んだ海岸線、清澄、嶺岡、両山系の奥深い緑など、豊かな自然環境に恵まれたまちです。特に、大きな観光資源となっております鴨川の海は、人々の憩いの場として、水産業の基盤として、また、生活の場として、市民共有の財産であります。この財産を守り育て、ここに集まった皆さんのような若い世代、そしてまた次の世代へと引き継いでいかなければならないことは、言うまでもありません。

この鴨川の海をより豊かに、よりきれいにするためには、市民の皆さん、事業者の皆さん、観光客の皆さん、そして市役所などの行政が互いに協力をしながら、一人でも多くの方が環境保全や美化活動などに取り組み、定期的、継続的にかかわることが重要であると考えております。

そこで、現在、市民の皆さんと一緒に実施している具体的な取組といたしましては、市内全域で実施する「ごみゼロ運動」や、前原海岸での「まるごみ清掃運動」、そして、天津小湊地区での「一斉清掃」などがあります。

さらには、海岸に流れ着いた竹や木、カジメの片づけなど、きれいな海岸環境を守っていくため、様々な取組を実施しています。

ご質問にもありましたように、特に夏の海水浴期間には、一部のマナーの良くない利用者によりゴミが散乱し、バーベキューによる炭などの放置、また、違法駐車が見受けられるなど、本市としても本当に頭を痛めているところでもあります。

これらの対策といたしまして、現在、市ではゴミのないきれいなまちづくりを進めるために、市内全域を対象とした「鴨川市まちをきれいにする条例」を定めています。

この条例には、市民や旅行者に対しまして、空き缶やタバコの吸い殻などをはじめとするゴミの散乱を防止していくルールが決められております。

このようなことから、この条例をみんなでしっかり守っていくこと、海岸を管理している千葉県をはじめ、鴨川警察署などの関係機関との連携、協力が重要であり、唐鎌議員も心配されている、一部の心ない行いにつきましては、今後しっかりと対応させていただき、より一層、みんなで、鴨川のきれいな環境を守っていこうという意識を高めていきたいと考えております。

今後とも、唐鎌議員のやさしい思いを、多くのお友達に伝えていただけると大変うれしく思いますので、よろしく願いいたします。

次に、嶋津大地議員からは、県道 81 号ループ橋工事についてのご質問をいただきました。

嶋津議員も普段ご利用されていると思いますが、県道 81 号、いわゆる「主要地方道市原天津小湊線」でございますが、これまで、清澄、四方木地区の皆様の生活道路として、さらには、千葉や東京方面から本市へのアクセス道路等としても多くの方々のご利

用をされています。

しかしながら、道幅も狭いうえカーブが多く急勾配となっていることから、千葉県によりまして、以前から改良工事が進められてきたところではあります。

さて、嶋津議員、ご質問の「清澄山道ループ橋」は、千葉県の事業として、平成 13 年度から工事がはじまり、橋の部分は、平成 23 年 7 月に完成したところですが、平成 26 年度までの坂本工区に係った事業費は約 79 億 5 千万円にもなっていると伺っております。

現在の工事は、その先に続く山の斜面を削って道路を造るために、工事用栈橋の設置等が行われているところではあります。

これらの工事は、急な地形のため、非常に困難な工事であり、特に多くの工事費が必要なうえ、調査や測量、設計をはじめ、工事期間も何年にも及ぶものと伺っております。

こうした中で、平成 33 年には清澄寺で大きな行事も予定されており、全国から多くの関係者が集まり、混雑することも予想されますことから、本市といたしましても、この道路整備につきましても、それまでに整備が完了するよう、千葉県をお願いをしているところではあります。

一刻も早く整備されることをご期待申し上げ、私からの答弁といたします。

### ○進藤愛夏議長

次に、長狭中学校、落合未来さん、東龍希さんに発言を許します。

[長狭中学校 落合未来議員・東龍希議員 登壇]

### ○落合未来議員

私は、長狭中学校 3 年の落合未来です。

私からは、市で検討しているユニークなアイデアについて、質問をします。

今、日本全国で少子高齢化が進んでいて、鴨川市も同様の状況です。働く場所が少ないために、市内から若者が出ていってしまう傾向にあることから、その結果として、人口が減少しているのではないかと考えます。そこで、これを改善するために、次のことを考えました。

- ①職種を増やす。
- ②災害対策を十分に行う。
- ③長狭米などの P R 活動。
- ④運動施設の有効な活用。

以上の 4 つです。他にも、例えば鴨川市は農業がイチ押しなので、市民が毎週土曜日に半日農業を手伝ったら、地域のスーパーの商品券が手に入るという発想はどうでしょうか？手伝った市民は商品券が手に入り、市としては農作物を世の中に売り出すことになり、双方にメリットがあります。

これらのように、現在市で検討されているユニークなアイデアがあったら教えていただけませんか。よろしく申し上げます。



## ○東龍希議員

私は、長狭中学校3年の東龍希です。

私からは、公共交通の利便性の向上について、質問をします。

鴨川市は総合病院や医療大学のほか、長狭高校には医療福祉コースも新設されるなど、医療が充実しているまちだと感じています。これは、今後の高齢化に対応した素晴らしい政策だと思います。

そのほかにも、都会からの移住や定期的に足を運んでもらうための、棚田のオーナー制度や、回帰支援などを行っていると感じました。

私は、鴨川市がより一層高齢化に対応できる市になってくれることを期待しています。しかし、その為にはバスをはじめとした公共交通の利便性を向上させる必要があるかと考えています。現状を考えると難しいのかもしれませんが、その方向性について市のお考えをお伺いしたいです。よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



## ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

## ○長谷川市長

只今、落合未来議員からは、市内に若者に残って頂くための一つのアイデアとして、「職種を増やすこと」、「災害対策を十分に行うこと」、「長狭米などの地域の特産品のPRを行うこと」、そして「総合運動施設の有効な活用」をすることの4点のご提案をいただきました。

ご提案をいただきました内容は、いずれも本市が非常に重要なこととして、現在取り組んでいるもの、また、これから積極的に取り組もうとしているものであり、私と致しましても、非常にうれしく思っている処であります。

また、落合議員からは、現在検討しているユニークなアイデアがありますかという、ご質問をいただきました。

ここで少し、本市での取組についてご紹介させていただきます。

鴨川市、特に長狭地区でのユニークな取組としては、平成十二年度から行われている、日本棚田百選「大山千枚田」での「棚田オーナー制度」があります。

日本では、民間の会社や市町村が地域振興の様々な活動を行う際に、支障となる法律の規制などを特別に緩和する制度として、「特区制度」がございしますが、この棚田オーナー制度の取組を進めるため、平成15年には、全国の特区第1号として、当時の小泉純一郎内閣総理大臣から、棚田農業特区の認定を受けたこともありました。

また、長狭地区には都市・農村交流の拠点として、総合交流ターミナル「みんなみの里」があります。この施設を運営していただいている「鴨川市農林業体験交流協会」の皆さんには、農林業にとどまらず、地域おこしに向けたさまざまな取組を行っているこ

とが評価され、平成 19 年に、当時の増田寛也総務大臣から、総務大臣表彰を受けております。

こうした都市・農村交流の取組をさらに発展させ、都会に住んでいる方々に本市へ移住し、あるいは一時的に滞在していただくためのお手伝いをするための組織として、旧隙小学校の近くに、「ふるさと回帰支援センター」があります。

最近では、人口の減少に伴って空き家が目に見えて増えてきましたが、このセンターを通じて、移住を希望する方に空き家や空き地の情報を提供し、少しずつ人口を増やすための取組も進めております。

また、落合議員からは、農業のお手伝いと引き換えに、地域のスーパーの商品券を配布するといった、大変、ユニークなご提案をいただきました。

市では、同じような取組として、市民皆さんに健康づくりに積極的に取り組んでもらえるように、検診を受けたり、ウォーキングなどの運動を行った場合にポイントを付与する「健康マイレージ制度」についても、今、研究しているところです。

こうした取組を実現するためには、市だけではなく、農家の皆さん、スーパーの皆さんをはじめ、農業、あるいは商工業に関係する団体の皆さんとの協力が必要になります。また、先ほど、お話をした空き家、空き地の情報提供には、持ち主の方のご協力も、欠かすことはできません。

これからの人口減少対策には、市だけではなく、関係する団体・企業の皆さん、そして何よりも市民の皆さんと協力して、“オール鴨川”で取り組んでいくことが必要です。落合議員にもその一人として、将来も、この鴨川で活躍してもらいたいと思っています。よろしく願いいたします。

次に、東龍希議員からは、公共交通の利便性の向上についてのご質問をいただきました。

ご質問のとおり、バスや電車、タクシーなどの公共交通機関は、今後さらに高齢化が進んでいく本市にあって、その重要性は益々高まっていくであろうと考えております。

一方で、市内の公共交通の状況を見ると、昔に比べて、人口が減少し、また、自分で自動車を運転する人も大変増えたことなどから、利用者も減少しています。

バス会社などでは、利用者や収入が減ってしまうと、赤字にならないように、運行にかかる費用を減らさざるをえなくなり、その結果として、運行される本数や路線が少なくなっていくこととなります。

こうした民間の会社では、運行を続けることが難しくなった赤字路線を、市が代わりに引き受ける場合もあり、まさに市のコミュニティバスの運行目的のひとつがこれにあたるのですが、市が持っているお金も限りがありますので、もともと赤字の路線、つまりは利用者がとても少ない路線で、利用者の皆さんが全く不便なく利用できる程の運行本数や走行距離を確保することは難しいという現状があります。

こうした中、市では、昨年度、公共交通に関する計画を策定し、その中で、市内の公共交通網が、より効率的・効果的なものとなり、将来にわたって安定したサービスが提供されていくように、市民の声を聞き、研究を重ね、市役所と市民、民間の会社などの間で良い連携を図っていくこととしています。

その一つとして、この6月からは、デマンド方式という、予約を頂いて運行する方式

ですが、内浦山県民の森までの路線の延長と、清澄ルートの運行時刻の見直しなども実施し、市民の皆様の利便性の向上に努めております。

しかし、公共交通の充実を図っていくうえでの重要なことの一つとして、やはり一度減ってしまった利用者数を増やしていくということは欠かすことができません。

このため、計画の中でも、公共交通の乗り方に関する教室の開催やお試し乗車券の発行など、利用促進の取組を数多く挙げています。

こうした取組により築いていく市民の皆さん一人ひとりとの協力関係を、ひとつの大きな土台として、今後も本市の公共交通の維持・充実を図っていきたいと考えていますので、どうぞ、東議員にも、公共交通をこれまで以上にご利用頂けたらありがたいと考えています。また、お友達の皆様にも本日の話の内容をお伝え頂き、ご利用をいただければと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。私からの答えとさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

次に、鴨川中学校、渡邊奏さん、小林龍平さんに発言を許します。

〔鴨川中学校 渡邊奏議員・小林龍平議員 登壇〕

### ○渡邊奏議員

私は、鴨川中学校3年1組の渡邊奏です。

私からは、鴨川有料道路について、質問をします。

鴨川市は、綺麗な海や豊かな緑に囲まれている地域性から、多くの観光客が訪れています。また、観光地を紹介するテレビ番組などでも、鴨川市が取り上げられることが多くなってきました。私は、家族と市外に出かける時などに鴨川有料道路を使用します。その時に下り車線の鴨川有料道路の料金所では、たくさんの観光客の車により支払いの混雑が起きている。高速道路ではETCの利用がごく当たり前のこととなりつつある中で、鴨川有料道路でもETCの利用ができれば、よりスムーズな観光ができると思います。これに関して、鴨川市における対策があれば教えてください。

よろしくお願いします。



### ○小林龍平議員

私は、鴨川中学校3年1組の小林龍平です。

私からは、市内で利用されている鯛ポイントカードについて、質問をします。

鯛ポイントカードとは、ポイントが貯まると500円分の買い物ができたり、楽しいイベントに参加することができたり、20円分の地域助成券として利用することができる鴨川市ならではのカードです。



私は、よく父と鯛ポイントカード加盟店である、うどん・そば屋さんに行くのですが、そこで鯛ポイントカードを使用します。

このように、他の市には無いような素晴らしいカードだと思うのですが、このカードを使える場所は、私が知っている限りでは市内に数か所しかありません。

鴨川市ならではこのカードを多くの人が利用できるようにすれば、地域の活性化にも繋がると思います。これについて、市の考えを教えてくださいたいと思います。

よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。

## ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

## ○長谷川市長

只今、渡邊奏議員からは、鴨川有料道路についてのご質問をいただきました。

渡邊議員がお話してくれたように、鴨川有料道路は、本市に観光等でお出でになるお客様の主要な玄関口となっているところです。

このため、休日や夏期シーズンになりますと、料金所におきまして、渋滞が発生することもありあるようです。

鴨川有料道路でのE T Cの利用を可能にすれば、料金所での車の一時停止が無くなり、円滑な移動が可能になるとの大変貴重なご提案をいただきましたので、さっそく、鴨川有料道路の管理者となります「千葉県道路公社」に確認をさせていただきました。

その結果、千葉県道路公社では、これまでも渡邊議員にご提案いただいたような、E T Cの導入について、検討したことがあったようですが、設置にかかる費用が大変多く必要となるため、残念ながら、導入を断念したとのことでございました。

また一方で、鴨川有料道路につきましては、鴨川市議会をはじめ、市民の多くの皆様から、住民の利便性の向上、観光振興等のためには、むしろ無料にするべきとして、早期無料化を求める要望が千葉県等に対して行われてきたところです。

こうした取組に併せ、平成24年度からは、千葉県の補助金を活用いたしまして、有料道路往復通行券を宿泊施設や観光プロモーションで無料配布して、観光客の誘致を行ってまいりました。

さらには、本年度は、千葉県の行う事業と致しまして、夏の観光シーズンとなる7月1日から9月30日までの3か月・92日間が、終日無料となることも決定し、既に実施されているところですので、こうした取組みを一つ一つ重ね、市民の方々、観光客の皆さんの利便性を確保していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、小林龍平議員からは、鯛ポイントカードについてのご質問をいただきました。

まず、鯛ポイントカードについてですが、合併前の旧天津小湊町の商店が中心となり組織された鯛ポイントカードサービス会において、お客様へのサービスと、地域社会への貢献等を目的とした、ポイントサービス事業を実施するための専用カードと承知しております。

また、お客様が鯛ポイントカードサービス会の加盟店でお買い物をされますと、原則100円につき1ポイントがもらえ、満点の360ポイントとなりますと、加盟店で500円分のお買い物ができたり、同会の主催するイベントへの参加券としてご利用できる仕組みになっております。

加えて、使用済みのカードにつきましては、お客様が市内の小中学校、PTA等、鯛ポイントカードサービス会に登録した福祉や教育等に貢献する団体へ寄贈した場合には、同会から一枚につき20円を助成する地域助成券制度も実施をしているようです。

鯛ポイントカードサービス会では、平成19年4月に鴨川と天津小湊の商工会が合併いたしましたのを機に、市内全域の商店等で鯛ポイントカードが利用できるよう商工会の各種会議におきまして、加入促進活動を行っていると同っておりますが、現在、加盟店は35店舗ございまして、そのうち旧鴨川市での加盟店は、残念ながら2店舗に留まっているのが現状でございます。

地域に根差した鯛ポイントカードを多くの皆様が利用して頂くことは、地域での個人消費の拡大、商店街振興の観点からも大きな効果があるものと思っておりますが、その一方、市内各事業者及び商店街等におかれましても、独自のポイントサービスや、それに伴う様々な地域貢献にも取り組んでおられますので、それらを鯛ポイントカードとして共通化するのは、今現在のところ、非常に難しい状況にもございます。

本市と致しましても、今後とも商工会と連携し、市内事業者の皆様が一体となって商業振興に向けた取り組みができるような仕組みづくりを応援させて頂くことをお約束申し上げます。

### ○進藤愛夏議長

次に、安房東中学校、吉村優里さん、桐木瞭さんに発言を許します。

[安房東中学校 吉村優里議員・桐木瞭議員 登壇]

### ○吉村優里議員

私は、安房東中学校2年の吉村優里です。

私からは、天津市街地の歩道について、質問をします。

私の住む天津の道路にはほとんど歩道がありません。一部では住宅地の中に歩行者用の細い道があるのですが、大通り沿いはほとんど道路脇の狭い路側帯の外を歩いています。特に私の住む地域では、道で話をしているお年寄りが多くいて、車に近くて危険だし、車を運転されている方々にとっても、いつ飛び出してくるか分からないと不安に思っていると思います。また、そのような道が小学生や私たち中学生の通学路になっていることから、交通量の多い登下校時などは、私自身も危険だと感じたことがあります。

今後、天津市街の歩道が無い道はどうなるのか教えてください。

よろしくお願いします。



## ○桐木瞭議員

私は、安房東中学校3年の桐木瞭です。

私からは、教育費の用途について、質問をします。

3月に実施されたまちづくり学習会の資料によると、鴨川市の歳入 152 億円のうち教育費は全体の 12.9%、つまり約 20 億円なのですが、この教育費はどのような内訳で使われているのでしょうか。

市内の3中学校で平等に分けられているのでしょうか。本校に通う生徒からは「湿気がすごいので大きな扇風機がほしい」、「バスケットゴールを手動ではなく電動にして欲しい」、「テニスコートを芝にして欲しい」など様々な要望があります。教育費をこれらの問題の解決に少しでも充ててもらえればと考えています。よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



## ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

## ○長谷川市長

吉村優里議員からは、天津市街地の歩道についてのご質問を、桐木瞭議員からは、本市の予算における教育費の使われ方についてのご質問をいただきました。

はじめに私から、天津市街地の歩道についてお答えをさせていただきます。そして、本市の予算における教育費の使われ方につきましては、この後、教育長からお答えをさせていただきます。

さて、ご質問のように皆さんの通学路には、路側帯が狭く、歩道が設置されていない道路も見受けられるところですが、道路周辺の状況などを見ますと、既に建物等が立ち並び、新しい歩道を造ることが難しい状況となっております。

しかしながら、平成24年、登下校中の児童生徒が死傷する事故が全国で相次いで発生しましたことから、本市におきましても、学校関係者をはじめ鴨川警察署、安房土木事務所鴨川出張所、交通安全協会、市役所の消防防災課、都市建設課、企画政策課で組織する「鴨川市通学路安全推進会議」等により、平成24年の5月から、毎年、市内の各小中学校の登下校時における危険箇所の点検等を行い、安全対策について関係者で話し合ってきたところです。

各小中学校からは、安全な登下校のための要望といたしまして、横断歩道のラインの書き直し、路側帯ラインの明確化、路側帯への緑色のカラー舗装、ガードレールの設置、歩道橋の設置等が出されましたが、これらの要望につきましては、これまで鴨川警察署や千葉県、そして本市等により一つずつ着実に作業が進められてきたところです。

さらに、8月には、各小学校の通学路において、関係者が集まって、緊急合同点検を行い、必要な対策を話し合ったところで、引き続き、通学路の安全対策のために、平成

26年2月には、「鴨川市通学路交通安全プログラム」がつくられました。

合同点検では、通学路の安全をいつまでも保つため、1年おきに行うとともに、対策実施後の効果の検証も、繰り返し実施いたしまして、より良い安全対策を進めているところ です。

安房東中学校付近におきましては、これまで、路側帯への緑色のカラー舗装や中学校東側側溝を危険防止のために、補修工事等を行ってきたところ です。

これからも、通学路等において歩行者が安全に通行できますよう、対策を行っていき たいと思いますので、ご理解をお願い申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

野田教育長。

[野田教育長 登壇]

### ○野田教育長

桐木瞭議員からは、本市の予算における教育費の使われ方に つきまして、ご質問をいただきました。中学生の皆さんにも、 ぜひ関心をもっていただきたい、素晴らしい質問であると思っ ております。

本年度の鴨川市一般会計当初予算は、151億7080万円で、 そのうち教育費は19億8325万円となっています。

この教育費は、幼稚園や小学校、中学校に関わる予算、公民 館や図書館、郷土資料館に関わる予算、総合運動場や給食セン ターに関わる予算などに分かれております。

本年度の幼稚園や小学校、中学校の予算は、8億1301万4千円となっており、この うち、中学校費は9892万7千円です。この予算は、電気や水道代、保健室の薬代、プ リンターのインク代、図書室の図書費などや、学校のいろいろな場所の修繕費、部活動 等の大会出場のための補助金などに使われています。その他、学校から要望のあった備 品などを購入したり、その他の学校環境整備に使われています。

次に、市内の3中学校で平等に分けられているのかというご質問ですが、学校の状況、 生徒の人数によって差はございますが、公平性を保つように努めています。

最後に、生徒の要望ということで、3点ございました。

湿気対策につきましては、学校からの要望もあり、平成24年度に除湿乾燥機を3台 購入しています。

扇風機の要望につきましては、今後安房東中学校の先生方とも相談して参りたいと思 っております。

次に、バスケットゴールを電動にして欲しいということですが、現在の安房東中の体 育館では、工事自体が困難であり、実現は難しいと捉えています。

3つめには、テニスコートを芝にして欲しいという要望でした。

安房東中学校のテニスコートは、依然、土の流出などでコート面が波打っていたもの



を、平成 24 年度に整地し、グリーンダストを敷き、グラスファイバーテープでラインを張り替えるという工事をいたしましたので、もうしばらくは現状での使用をお願いしたいと考えています。

教育委員会といたしましては、生徒の皆さんが充実した学校生活を送ることができるよう精一杯努めて参りますので、これからも皆さんの声をぜひともお聞かせくださいますようお願いを申し上げます、私からの答弁とさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

それでは、ここで、若干の休憩時間を設けます。

2 時 30 分まで休憩といたします。

〔休憩〕

### ○進藤愛夏議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、長狭中学校、落合由理恵さん、松本優香さんに発言を許します。

〔長狭中学校 落合由理恵議員・松本優香議員 登壇〕

### ○落合由理恵議員

私は、長狭中学校 3 年の落合由理恵です。

私からは、子育て環境について、質問をします。

理想のまちとは、仕事と子育てがしやすいまちのことだと思います。それは鴨川市だけではなく、全国各地の理想でもあると思います。

そこで、これらのまちづくりのため、私はこの鴨川の自然を最大限に活かしていけたら良いのではないかと思います。

しかし、実際は大学生になった人が上京し、そのまま便利な都会で仕事に就き、生活する人が多いのが現状です。一度便利な都会で生活すると、なかなか地元に戻ってこないのだろうと思います。

だからといって、都会の便利さを越えようというのは、正直、夢のまた夢です。

そこで、都会ではできない、この自然を活かした子育てのしやすいまちとして、たくさんの方に生活してもらおうというプランであれば出来るような気がします。

まずは、広い土地や豊かな自然を活かして、憩いの場としての公園を作ったらどうでしょうか。子どもの遊び場となるほかお年寄りの運動の場にもなると思います。

子育てに着目すると、鴨川市は子育てのしやすい環境でしょうか。

人口減少や過疎化を食い止めるためには、まず出生率の上昇と、保育所等の子どもが育つ環境を良くすることではないでしょうか？子どもを育てるには、家族の協力と保育施設の 2 つが必要かと思います。

核家族化が進む今、家族と同じくらい保育施設が大切になると思います。ニュースでは待機児童が話題になっていますが、鴨川市の状況を教えていただきたいと思います。



よろしく申し上げます。

### ○松本優香議員

私は、長狭中学校3年の松本優香です。

私からは、地域情報の発信方法について、質問をします。

鴨川市では、毎年6月から8月にかけてアカウミガメの産卵が行われています。

アカウミガメは、環境省作成の第4次レッドリストにて絶滅危惧1B類に選定されているため、市では鴨川シーワールドの協力のもと、産卵箇所へ柵を設置するなどの保護活動を行っています。こうした活動を大々的にPRして、鴨川市に興味を持ってもらえたら良いと思います。その方法として「広報かもがわ」などを有効に活用できないでしょうか。

このことについて、市のお考えをお伺いしたいです。よろしく申し上げます。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



### ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

### ○長谷川市長

只今、落合由理恵議員からは、理想のまちとは仕事と子育てしやすいまちであるとの視点に立って、こうしたまちづくりに向けてはどうしたらいいかということについてご質問をいただきました。

さて、本市の総人口はこれまで減少傾向にあり、出生数も穏やかですが減少傾向にありますことから、いかに人口の流出を減らし、定住人口を増やすかが、本市のまちづくりを考える上では欠かすことのできない課題となっております。

そして、その一つの対策として、平成27年3月に「ささえあい、安心して子どもを生み育て、みんなの笑顔を育むまちづくり」を目指しまして、子ども・子育て支援事業計画を策定したところです。

まず、子どもを健やかに育む環境づくりの観点から、子どもたちの居場所づくりについてお答えいたします。

市内には、子どもたちの遊び場である児童公園が7か所と、市立公園が12か所あります。児童公園については、広場に滑り台やブランコ等の遊具を設置し、地域の皆様のご協力も頂きながら管理・整備を行っております。

次に、市立公園ですが、敷地面積は12か所合わせまして約19.3ヘクタール、東京ドーム約4個分で、遊具が設置されている公園は4か所となっております。

中でも市民会館脇の鴨川潮さい公園と太海地区にある鴨川市ふれあい記念公園は、大型の複合遊具等を配置し、幼児から低学年の子どもに人気が高い遊び場として、多くの市民の方にご利用頂いております。

また、魚見塚一戦場公園は広々とした芝生広場があり、見事な桜のある公園として人気があります。

本市の公園・緑地は、市民の方々の健康づくりや、憩い、交流の場であるとともに、災害時の避難場所や防災空間としても大変重要な機能を持っていますので、新たな公園整備ということについても必要性を十分に検討してまいりたいと考えております。

続きまして、本市の保育環境の整備についてお答えさせていただきます。

本市では、子育て支援の一環として本市独自の取組である幼保一元化を実施しており、本年4月からは、すべての幼稚園で、朝、夕の預かり保育を行えるようになりました。

また、保育園では、保育時間を延長してお子さんを預かる延長保育を実施しています。そして西条保育園では、保育園を利用していない在宅のお子さんの一時保育を実施しています。

次に、待機児童についてですが、保育園の定員は8園合わせて580名で、この6月1日現在の入園児童数は389名となっております。現段階では、待機児童はいない状況となっております。

しかしながら、落合議員のお話のとおり、保育環境の充実は極めて重要なことですので、現在、平成28年4月の開園を目指し、民間事業所と一緒に準備を進めている認定こども園では、3歳児の幼稚園教育が実施されるほか、休日、夜間等の保育にも対応可能な施設とする予定となっております。

この認定こども園という施設は、幼稚園と保育園の機能を備えた新しい仕組みの施設となっております。

このほか、病気のお子さんを預かる施設等の整備も予定しているところで、休日、夜間勤務等やお子さんが急な発熱となった場合等でも、安心してお子さんを預けられる環境整備として進めているところであります。

落合議員から頂きましたご提案を踏まえまして、若いお父さん、お母さん方をしっかりと応援する、そして、仕事がしやすい、子育てがしやすい環境を整え、住んでみたい、住んでよかったと思っていただける、魅力あるまちづくりを推進してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、松本優香議員からは、地域情報の発信方法についてのご質問をいただきましたので、今年のアカウミガメの産卵状況も含めてお答えいたします。

今年最初となるアカウミガメの産卵ですが、鴨川シーワールドにて、先月、6月11日に市内の海岸で産卵を確認しましたが、高波で卵が流される危険性があったため、114個の卵を鴨川シーワールド内の「ウミガメの浜」に移し、今保護しております。

ご質問にもございましたとおり、アカウミガメの産卵は、6月から8月にかけて東条海岸を中心に見られますが、高波などの来ない所であれば、人が立ち入らないように柵を設置し、また、ふ化に適さない場所に産卵した場合には、鴨川シーワールドにて保護を行い、市も勿論、担当課である農水商工課の職員が現場に行ってみております。

そこで、こうした活動を大々的にピーアールし、本市に興味を持ってもらえればということですが、まさに私も同感で、それにはまず市民の皆様に、特に次の世代を担う松本議員をはじめとするみなさんたちに知っていただき、理解していただくことが重要だと考えております。

具体的な取組といたしましては、既に市内いくつかの小学校や土曜スクールでは、鴨川シーワールドのご協力により「ウミガメ移動教室」を実施いたし、絶滅危惧1B類であるアカウミガメの保護活動を通して得られた知識や、本物の子ガメに触れたり観察したりすることで、自然保護への理解や命の大切さを知っていただいております。

私は、このような取組が、美しい海岸づくり、環境の整備に繋がり、やがては観光客の増加、地域の活性化にも結び付けてくれればいいな、このように思っているところです。

また、これらの取組は、これまで新聞掲載やテレビでも情報発信されておまして、広報かもがわにおきましても、土曜スクールでの「ウミガメ移動教室」の掲載もいたしておりますが、市といたしましては、アカウミガメだけでなく、季節ごとの地域情報をホームページも含めて、引き続き発信をしていきたいと考えております。

松本議員のようなお考えの方が増えれば、海はしっかりと守られ、環境が守られ、自然が守られると思っております。皆さんの力で豊かな自然を次の時代につなげていきましょう。

以上で私からのお答えとさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

次に、鴨川中学校、水上晃希さん、小島末空さんに発言を許します。

〔鴨川中学校 水上晃希議員・小島末空議員 登壇〕

### ○水上晃希議員

私は、鴨川中学校3年2組の水上晃希です。

私からは、津波への対策について、質問をします。

鴨川は観光地として有名で、多くの方が海水浴やサーフィン、釣りをしに訪れます。私も海が好きなので、近くにあることが嬉しいです。

しかしその反面、津波のことが心配です。私は、小学校4年生の時に秋田県で東日本大震災を経験しました。

私の住んでいた地域では津波の被害はありませんでしたが、テレビでは宮城や岩手に大きな津波が押し寄せていて、とても怖かったです。

日本は地震大国なので、いつ地震が来るか分かりません。

鴨川に地震が来た場合、津波の危険が予想されます。堤防を高くしたら、海が見えなくなるところもあり、観光地としてはマイナスになると考えられます。災害に対する市の取組みを教えてください。

よろしくをお願いします。



## ○小嶋末空議員

私は、鴨川中学校3年4組の小嶋末空です。

私からは、都市政策について、質問をします。

鴨川市は自然に恵まれているということもあり、大型連休や週末には多くの観光客で賑わっています。しかし市内を見渡すと、鴨川地区は賑わいがあり、たくさんの建物や施設に囲まれています。その一方で、太海地区や曾呂地区では鴨川地区のような発展・賑わいが無いように感じます。

同じ鴨川市内であるのにもかかわらず地域差があることがとても気になります。

仕方がないことかもしれませんが、このような地域差を軽減させるための都市政策は行われているのでしょうか。教えてください。よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



## ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

## ○長谷川市長

只今、水上晃希議員からは、津波対策についてのご質問をいただきました。

津波対策で重要なことは、これから発生すると考えられる津波を、正しく想定し対策を行うことです。千葉県では、元禄地震が発生した区域で起こる津波が最も影響が大きいと言われています。それを最新の研究成果でシミュレーションすると、本市には、最大7.3mの津波が8分から10分で押し寄せる結果となりました。

また、比較的発生頻度が高く、津波の高さが低い津波は、海岸に海拔5mで整備されている防潮堤で防げる結果となっております。

そこで本市では、市民の皆さんが確実に避難するための対策を行っています。

まず、昨年、各ご家庭にお配りした防災マップには、避難の目安として、海岸に一律10mの津波が押し寄せた場合の「浸水想定区域」を表示いたしました。

また、市内240箇所の電柱に海拔を表示させていただきました。避難場所として、東日本大震災以前は1箇所だった津波避難ビルも現在は43箇所となっております。これは防災マップに表示されておりますので、ぜひみなさん確認しておいて下さい。さらに、津波が発生した場合に避難指示を伝えるため、防災行政無線、防災ラジオ、緊急速報メールなども整備しています。

そして、本市では地震から10分以内に海拔10m以上の場所へ避難することを目的とした「津波避難訓練」を毎年実施しております。

皆さんもご承知のとおり、6月25日の木曜日に参加していただきました。本市では、皆さんが学校にいる時間帯に、もし津波が発生した場合は、津波の恐れがなくなるまで、そのまま避難を続けることになっています。

そこで、ご家族に「私たちは安全に避難しているから、安心して自分の避難に集中して欲しい」とお伝えいただきたいと思います。

実際の津波は 100 年後、あるいは 1000 年後かも知れません。しかし大きな地震の時は、急いで何よりも高いところに避難することを忘れないで下さい。そして皆さんが大人になり、親になったとき次の世代へ確実に、このことを伝えて頂きたいと思います。それが、私も含めて東日本大震災が発生した時代を生きた人間の「責任」ではないでしょうか。よろしく願いいたします。

次に、小畠末空議員からは、鴨川地区と太海地区、曾呂地区などの地域差を軽減するための都市政策についてのご質問をいただきました。

はじめに、都市政策について、少し説明をさせていただきます。一般的に都市政策とは、都市計画法という法律に基づいて行われる土地利用の規制や事業等のことです。

本市におきましては、建築できる建物の種類、面積、高さ等の規模を制限する「用途地域」という範囲をつくりまして、JR安房鴨川駅を中心に商業施設が集まる「商業地域」を、そして、西条・東条地区の一部には、住宅等の環境を確保するため「住居地域」を定め、それぞれの地域の環境を守るために、環境を悪化させる建物は、建てることのできないような仕組みとなっています。

さて、太海地区や曾呂地区は、賑わいが無いとのご指摘ですが、太海地区では、仁右衛門島、太海フラワー磯釣りセンター、道の駅オーシャンパークなど美しい海岸線を活かした観光施設をはじめ、城西国際大学安房キャンパス、早稲田大学セミナーハウスなどの教育関連施設を有する地区として、多くの観光客や若者が集まっていると思っています。

また、曾呂地区では、本市が生んだ偉人で、大蔵大臣として戦後経済の再建と教育に功績のあった「水田三喜男」氏の生家が登録有形文化財として保存されているのをはじめ、二子地区の「棚田オーナー制度」、「水仙ハイキング」等、歴史や自然を活かして、多くの観光客等を受け入れていると思っております。

市民の皆さんからいただいたアンケートでも、「鴨川市域全体に広がる自然環境を活かしたまちづくりを進めてもらいたい」との多くのご意見をいただいておりますことから、これからの本市の都市政策におきましては、賑わいだけにとらわれず地域のそれぞれの特性を活かしたまちづくりを進めていくことが大事なことと考えております。

さらに、皆さんが住んでいる周辺の自然などの生活環境を守りながら、道路等の整備を進めることで、地域により大きな格差が生じないまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、ご理解をお願い申し上げまして、私からの答弁といたします。

## ○進藤愛夏議長

次に、安房東中学校、小原茉夕さん、小菅希望さんに発言を許します。

〔安房東中学校 小原茉夕議員・小菅希望議員 登壇〕

### ○小原茉夕議員

私は、安房東中学校3年の小原茉夕です。

私からは、働く場所を増やす取組みについて、質問をします。

鴨川市の人口は年々減少していています。

その原因は少子高齢化によることが一つと、仕事の選択肢が少ないことだと私は思っています。若い人は仕事の選択肢が多い鴨川市外に出て行ってしまっていると思います。

また、この鴨川に戻ってきたいと考えても、仕事場所が少ないので、今の状態では難しいと思います。以上のことから、私は、人口減少や少子高齢化を防ぐためにも仕事の選択肢を増やしてほしいと考えます。それにつきまして、市ではどのような対策を考えていますか。

また、60歳以上の人が、平成32年以降には約4割を占める予想となっていますが、このことに関して市ではどのような対策があるのか教えてください。

よろしくお願いします。



### ○小菅希望議員

私は、安房東中学校3年の小菅希望です。

私からは、安房東中学校の今後について、質問をします。

現在、鴨川市では少子高齢化が進んでおり、このままだと本校に入学してくる生徒が更に少なくなることが予想されますが、その場合、最終的には他の中学校との合併の可能性が出てくるのでしょうか。

本校は、昨年度、開校10周年を迎え、今年度は11周年ということで、新たな歴史を作ろうとこれまでと違った取組みを行っています。

これからも地域と共にたくさんの歴史を作っていく学校ですので、無くすという方向には行ってほしくないのですが、このことについて、市のお考えをお伺いしたいです。

よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



### ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

〔長谷川市長 登壇〕

### ○長谷川市長

只今、小原茉夕議員からは、働く場所を増やす取組みについてのご質問を、小菅希望議員からは、安房東中学校の今後についてのご質問をいただきました。

はじめに私からは、働く場所を増やす取組についてお答えをさせていただき、そして、安房東中学校の今後については、この後、教育長からお答えをさせていただきます。

さて、小原議員の言うとおりの、少子高齢化と、市内に仕事をする場が少ないことによる若い世代の市外への転出は、本市の人口減少の要因の一つになっています。

働く場所を増やしたり、仕事の選択肢を増やしたりするための対策についてですが、工場やお店を建てたり、新しく人を雇うためには、多額の資金が必要です。

そのため、新しく工場やお店を建てたり、新しく人を雇ったりした場合には補助金を出して支援する制度を昨年、平成 26 年度から始めております。

また、本市の主な産業は、観光と医療・福祉で、これらの企業・会社に勤めている方は、全体の 4 割にも上っております。

本市には、他市にはない、こうした産業に人材を送り出す大学や専門学校が、城西国際大学・観光学部、亀田医療大学、亀田医療技術専門学校と揃っていますから、これからも観光や医療・福祉を本市の柱、強みとなる産業と位置づけて、農業や漁業、商工業などのさまざまな産業にも良い影響を与えられるように、しごとづくりに努めてまいりたいと考えております。これは、極めて重要であると考えています。

また、高齢化への対策についてですが、小原議員の言うとおりの、本市で 65 歳以上のお年寄りが総人口に占める割合は、平成 22 年に 32.3%だったものが、平成 52 年には 39.3%と、およそ 4 割になることが予測されております。

人口減少や少子高齢化に歯止めをかけるためには、働く場所を確保して若い方々に住んでもらうことも必要ですが、そのためには、お父さん・お母さんが働いても、出産や子育てをしやすい環境をつくることも大切であり、必要であると考えております。

このため、3 人目以降のお子さんを産んだ方にお祝い金を差し上げたり、お子さんが病院にかかった場合の費用の助成、幼稚園と保育園の一体的な整備、学童保育や土曜スクールなどの取組を進めているところです。

また、お年寄りの方々に、いつまでも元気でいてもらうことも重要です。そのためには、ただ長生きしていただくだけではなく、病気で寝たきりになったり、介護が必要な状態とならずに、元気に暮らしていける期間を延ばしていくことが必要あると思っています。これを「健康寿命」といいますが、本市では、この健康寿命を延ばしていくために、介護予防や、お年寄りの健康づくりのための取組も進めております。

お年寄りの皆さんにいつまでもまず元気でいて頂くためには、こうした市としての取組などのほか、普段の生活の中で、小原議員のような若い世代の皆さんと触れ合ったり、また頼りにされたりといったことも重要な要素となります。

まちの中で、近所のおじいさん、おばあさんに会ったら、積極的にあいさつをする、また、声をかけるといったことが、とても大切だろうと思います。

どうぞ、小原議員におかれましても、本日のお話をお友達にもお伝えいただき、率先して、こうした取組を行っていただきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます、私からの答弁といたします。

## ○進藤愛夏議長

野田教育長。

[野田教育長 登壇]

## ○野田教育長

小菅希望議員からは、安房東中学校の今後についてのご質問をいただきました。

小菅議員がご心配されていますように、本市のみならず、全国的な傾向として少子高齢化社会が大きな問題となっています。

天津小湊地区におきましても、平成 17 年 4 月に、旧天津中学校と旧小湊中学校が統合され、安房東中学校が開校いたしました。その後、先輩方を含め、安房東中学校の皆さんの努力により、新たな、そしてすばらしい歴史が刻まれていることに感謝しています。また、昨年度は 1 年間 30 日以上欠席、不登校生徒が 0 という、素晴らしい学校となっております。

ご質問いただきました安房東中学校の今後についてですが、他の中学校との統合は全く考えておりません。

安房東中学校、鴨川中学校、長狭中学校の 3 校が、それぞれの特徴を活かし、生徒と先生、そして地域の方々が力を合わせ、それぞれに魅力いっぱいの学校を創ってほしいと考えております。

教育委員会では、鴨川市内の中学生の人数が、今後どのように変化していくかということについて調査しています。

これからの天津小湊地区の中学生の人数はどのように変化するかと申しますと、安房東中学校の生徒数は、今年度 4 月は 124 名でありました。

そして、来年度は 118 名、5 年後の平成 32 年には 108 名、10 年後の平成 37 年には 93 名となることが予想されます。1 年生から 3 年生まで、各学年 1 学級、各学級 30 名前後の人数での学校生活となります。その後もしばらくの間は、90 名以上を維持できるのではないかと考えております。

さて、ここに小菅議員が天津小学校を卒業した時の卒業アルバム「未来」があります。

先ほど質問に立った、安房東中学校の唐鎌議員、嶋津議員、桐木議員、小原議員、そして小菅議員の文集が載っています。未来の自分について書かれていますが、小菅委員は、将来の夢として消防士になると書かれていましたね。覚えていますか。消防士になって色々な人を助けたいという思いが伝わってきます。そして結婚して子どもが生まれたら、自分の趣味であるバスケットボールをぜひとも教えてあげたいという夢も書かれておりました。

天津小湊の地域で生まれ、地域の方々に見守られ、育ってきた皆さんが、天津小湊で、家庭を築き、生活していくことができれば、本市の人口も安定し、あるいは増加し、安房東中学校の未来も輝きを増すことでしょう。教育委員会としましても、そうした天津小湊を、鴨川を皆さんと一緒に創って参りたいと思います。皆さんの若い力を、柔らかな発想を、地域を愛するその思いを、これからの鴨川市のためにお貸しいただくことをお願い申し上げ、私からのお答えとさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

次に、長狭中学校、渡久山実咲さん、永井浩平さんに発言を許します。

〔長狭中学校 渡久山実咲議員・永井浩平議員 登壇〕

### ○渡久山実咲議員

私は、長狭中学校3年の渡久山実咲です。

私からは、観光客の誘致について、質問をします。

鴨川市は観光地だと思っていますが、主な集客は、沿岸部の鴨川シーワールドのほか、団体客であればみんなみの里、カステラ工房など、いくつかの施設が中心になっているように思います。

市内にある観光施設のうち、太海フラワー磯釣りセンターや鴨川オーシャンパークは中学1年生の時に校外学習で訪れましたが、平日であったためか観光客は少なく感じました。

そこで、これら観光施設の集客の状況はどのようになっているのでしょうか。

また、平日は観光客が少ないといった現状について、市ではどういった対策を考えているのか教えてください。よろしくお願いします。



### ○永井浩平議員

私は、長狭中学校3年の永井浩平です。

私からは、新たな手当の新設について、質問をします。

鴨川市の将来を考えると、今ある「出産手当」に加えて、「結婚手当」などの新たな手当を増やすことも方法の一つではないかと考えました。

そのほかでは、高齢者の生活を支援することを目的とする「高齢者手当」なども良いと思います。

つい最近、南房総市では塾に通う子どもの費用を一部負担する、という記事を見ました。鴨川市としても、他の市にはない政策を行うべきではないかと考えます。

新たな手当の実現には財源が大きな課題となりますが、観光客の誘致などによりこの費用がまかなえれば良いと思います。

このことについて、市のお考えをお伺いしたいです。よろしくお願いします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



### ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

〔長谷川市長 登壇〕

## ○長谷川市長

只今、渡久山実咲議員からは、観光客の誘致についてのご質問をいただきました。

渡久山議員もご承知のとおり、本市は、温暖な気候と美しい海岸線など豊かな自然に恵まれ、日蓮聖人ゆかりの神社・仏閣や鴨川シーワールド、太海フラワー磯釣りセンター、大山千枚田など豊富で多彩な観光施設があります。

平成 26 年における本市の観光入込数を見ますと、延べ 295 万人となっており、その内、観光施設への入込数は 238 万人、やはり、平日よりも休日に観光客が集中し、特に普段の休日よりも、5月のゴールデンウィークや7月8月の夏の期間、年末年始といった、会社や学校が長期のお休みとなる時期にお客様が集中する傾向となっております。

また、旅行のスタイルは、団体旅行から個人旅行へ、そして、単に観光施設を観てまわるだけでなく、何かに触れ、何かを体験するといった、体験型の観光へと変わってきておりまして、更には、鴨川ならではの美味しい物が食べたい、鴨川ならではの土産を購入したいといったニーズもあるようです。

一般的には、これらの情報を知るには、1か所では分からず、いくつかの施設に問い合わせをしなければなりません。あるいは、どこに聞いたらよいか分からないなど、お越しになられる観光客の皆さんにとって、不便を感じさせてしまう場合もあります。

このため、本市では、観光やイベントなどの情報を一括してご案内するための総合窓口として、市だけではなく、観光関係、商工関係をはじめ関係各種団体で組織する、「鴨川市観光プラットフォーム推進協議会」を平成 23 年に立ち上げ、これまで、鴨川にお越しになられます、お客様に対し、観光情報や各種サービスの提供をしてきております。

そこで、ご質問のごさいました、平日の観光客の少ないことへの対策について、いくつかの取組をお話をさせていただきますが、日本の棚田百選の大山千枚田を、1万本のLEDキャンドルや松明で照らす「棚田の夜祭り」や、市役所近くの水田約 2.7ヘクタールを菜の花で彩る、写真撮影や摘み取り体験をしてもらう「菜畑ロード」など、これらは、本市への観光客が少なくなる冬の時期での開催や体験イベントとして、土・日に限らず、長い期間にわたり開催をし、その間、多くの観光客に来ていただこうと取り組んでいるものがございます。

また、渡久山議員の通われている長狭学園にほど近い、きねづか山の「吉保梅の里づくり」は、地元の農家さんや観光関係者の皆さんが一緒になって5千本の梅を植栽し、春先にかけて、より多くの観光客に来てもらおうと進めているもので、新たな観光地づくりの取組として始まっております。

このように、本市では、地域にあるさまざまな資源を活かし、年間を通して多くの観光客に来てもらえるような取組をこれからも進め、チラシ・パンフレット作成、あるいはインターネットによる情報発信などに、より一層、力を入れて行きたいと考えております。

ぜひ、渡久山議員も外に出かけた時には、鴨川のすばらしさをPRしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、永井浩平議員からは、新たな手当の新設についてのご質問をいただきました。

本市では現在、3人目以降のお子さんが生まれたご家庭に対しまして、第3子出産祝

金を 20 万円支給しています。

この取組みは、県内では本市をはじめ 4 市で実施をしていますが、平成 5 年度から昨年度までに子育て家庭の経済的支援を目的に昨年度までに 800 人の皆さんに支給してまいりました。

この他にも、子ども医療費の助成や住宅改修への助成など、数多くの支援を実施しております。

また、このような金銭面での支援だけではなく、保育サービスの充実や、今年度市内全域での実現が叶いました学童保育の整備など、子育て家庭への支援に力を入れています。

また、高齢者の方々の生きがいづくり活動の促進や、身近な地域で安心して暮らし続けることができるように介護予防事業や施設の整備に取り組んでおります。

中でも、他の自治体に先駆けた取組みとして、市民の皆さんが健康で安心して暮らせるよう、24 時間・365 日、健康・福祉の相談に対してワンストップで対応できる福祉総合相談センターの開設や、一定年齢に達したお年寄りにお祝品等を贈呈する敬老事業の推進、また、最近では結婚を望んでいる方々に対して、結婚の成立のための支援を行う婚活事業に取り組むなど、直接的な経済支援だけではなく、取り巻く環境整備の充実を図るなど、いろいろな面から支援に取り組んでいるところであります。

これらは、まさに永井議員のおっしゃるとおり、市内定住化の促進、活力あるまちづくりの促進が図られるよう、将来に向けた魅力ある鴨川づくりをしていくことが重要であり、今やらなければならないことであると、このような思いで取り組んでいるところであります。

今後も引き続き、本市の実情に合った、またオリジナリティのある取組を検討していきたいと考えておりますので、ご理解をお願い申し上げて、私からの答弁といたします。

## ○進藤愛夏議長

次に、鴨川中学校、鈴木愛菜さん、根本海成さんに発言を許します。

〔鴨川中学校 鈴木愛菜議員・根本海成議員 登壇〕

## ○鈴木愛菜議員

私は、鴨川中学校 3 年 3 組の鈴木愛菜です。

私からは、商店街の活性化について、質問をします。

私の実家は、鴨川駅近くの昭和通りで鶏肉屋を営業しています。

母から聞いた話によると、この通りには昔、旅館や薬屋、銀行など多くのお店があり、とても賑わっていましたが、現在では 10 店舗以上がお店をやめてしまったそうです。

また、祖母が住んでいる新町通り商店街でも同じ状態にあると聞くことを聞きました。

昔のように、たくさんのお店が並んで、たくさんのお客さんが訪れ、買い物することができるような賑わいのある商店街を取り戻すような活性化対策はどんなものが考え



られますか。

また、この件に関して、現在、市が取り組んでいる対策があればお聞きしたいです。よろしくお願ひします。

### ○根本海成議員

私は、鴨川中学校3年3組の根本海成です。

私からは、千葉ロッテマリーンズ秋季キャンプの効果について、質問をします。

私自身、野球部に所属していて、プロ野球にも興味があり、毎年秋に千葉ロッテマリーンズが本市へキャンプに来ることを楽しみにしています。

そこで、疑問に思ったことがあります。それは「この千葉ロッテマリーンズの秋季キャンプは、本市にどのような経済効果があるのだろうか。」ということです。

このことについて、教えて頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

以上で、私たちの登壇での質問を終わります。



### ○進藤愛夏議長

ただ今の質問に対する答弁を求めます。長谷川市長。

[長谷川市長 登壇]

### ○長谷川市長

只今、鈴木愛菜議員からは、商店街の活性化についてのご質問をいただきました。

まず、本市の商店街の現状でございますが、近年の大型店の進出や車社会の進展等、様々な社会経済環境の変化により、これまで地域生活の中心となっていた商店街も、残念ながら今は、非常に厳しい状況でございます。

こうした中で、鈴木議員ご質問の商店街の活性化対策につきまして、本市のこれまでの取組状況をお答えいたします。

まずは、市内の商店の方々への直接的な支援制度と致しましては、中小企業・資金融資に係る借入金の利子の補給金等がございまして、これは、商店を含めた中小企業の皆さんが銀行から事業資金等を借りた際に、その利子、あるいは保証料を補助する制度でございまして、平成26年度は、304件で、約870万円を補助しています。

また、本市には、新町通りと中央通りを区域といたします鴨川中央商店街振興組合がございまして、ひとつの商店街として活動をしておりました。

この商店街に対し、昭和60年代から「商店街にぎわい創出事業」として、歳末大売り出し等のイベントやポイントカード事業等についても支援を行っております。

さらには、平成23年度から平成24年度までは、本市の商工会、観光協会、青年会議所、城西国際大学及び行政が連携し、ご当地アニメを活用した事業の一環として、新町通り商店街を含めた市内の十数店舗の店先をお借りしてのファン・スポットの設置や、

街めぐりのできるゲームの実施、ガイドマップの作成、加えて城西国際大学の学生や長狭高等学校生徒による、新町通り空き店舗3軒へのシャッター・アートの取組なども行っています。

また、本年6月には、市内の消費を喚起し、生活支援と共に、市内、商工業の振興を図る目的で、鴨川市内のみで使用可能なプレミアム付き商品券発行事業なども実施し、市内商店での消費を促してまいりました。

こうした中で、議員ご質問の、商店街の活性化対策でございますが、これには、様々な方法があると思います。

現在、市内には2つの大学が設置され、在学中の大学生もいらっしゃいます。

こうした方々に利用して頂けるような商店街づくりや、お一人暮らしが増えているお年寄りや障害者にもやさしい、車椅子でも安心して買い物にいけるような商店街づくり等、市民の方々の現在の生活に合わせたお店作り、商店街づくりを進めていくことが必要だと考えております。

本市と致しましては、今後も商店街を取り巻く様々な環境を見極めながら、商工会、観光協会等関係団体の連携の中で、関係者それぞれが自らの課題として捉え、知恵をしぼり、真剣に取り組んでいくことが必要であると考えております。そうした取組には行政も積極的に支援をしてまいります。

どうぞ、鈴木議員におかれましても、お友達にもお声がけをいただき、お客様として、是非とも地域の商店街をご利用くださるようお願いを申し上げます。

次に、根本海成議員からは、千葉ロッテマリーンズの秋季キャンプが、本市にどのような経済効果があるのか、というご質問をいただきました。

この県民球団・千葉ロッテマリーンズのキャンプについては、2008年の春季2軍キャンプから始まり、秋のキャンプについては、2010年から、毎年、約3週間にわたり実施されています。

この期間中、どのくらいのお客さんが鴨川キャンプに来ているか、ご存知でしょうか。

市では、毎日、会場入口で来場者数をカウントしていますが、ここ数年は、キャンプ地に毎年2万人以上のマリーンズファンが、キャンプを楽しみに鴨川に訪れていただいております。

では、経済効果という話ですが、この2万数千人の人たちが、鴨川へ来て、1人当たり1千円使ったとしたら、鴨川市内へ、一体いくらくらいのお金が入ってくるかということを見ると、約2千万円になります。1人が1万円使ってもらえれば約2億円、というような計算ができます。

もちろん、使う金額は、人それぞれによって違うわけでございますが、市では、キャンプ会場内で来場者アンケートを実施しており、市内から来た人、市外から来た人、または、日帰りの人、宿泊していく人などが、どのくらいの割合でいるかという調査をしています。

その調査結果を基に、国の統計局による計算方式を使いまして、キャンプに訪れた方々によって、どれくらいの経済効果があったかということ推計しております。

また、キャンプ期間中には、千葉ロッテマリーンズの選手やコーチ、スタッフなど、年によって変動がありますが、60名～100名の団体が約3週間にわたり、市内に滞在

することで、宿泊費や飲食費をはじめ、使われるお金も本市への大きな経済効果となっております。

このように、キャンプが実施されたことで、新たな需要が生まれ、さらには、その関連する産業にも波及します。

こういった経済的な効果をすべて計算し、昨年の秋季キャンプの経済効果額は、約2億6千4百万円と算出したところです。

また、キャンプの効果としては、全国に12球団しかないプロ野球チームが、この鴨川でキャンプを実施することで、スポーツニュースなどのテレビや新聞、インターネットなど、マスコミに大きく取り上げられ、プロ野球キャンプ地として、鴨川の名前が全国にPRされます。

テレビ放映や新聞掲載などによる宣伝は、こちらからお願いすると、本来ですと、大変なお金がかかるわけですが、これを無料でやってくれていることになり、観光地・鴨川として大きなメリットが生まれていると思っています。

さらには、スポーツ振興という側面では、プロ野球選手という、国内のトップアスリートの素晴らしいプレーを間近で見ることができる貴重な環境と、根本君も小学生時代に経験した、プロ野球選手が直接指導してくれる少年野球教室など、地域の子どもの夢や希望を育む機会となっていることも、キャンプの重要な効果の一つであると考えています。

この度の『全日本少年軟式野球千葉県大会』では、根本主将率いる鴨川中野球部が第3位に入賞するという大健闘をしたことも、プロ選手の指導に繋がっているものと確信しています。私も野球が大好きですが、ぜひ、根本君も鴨川市初のプロ野球選手を目指して頑張ってください。

また、スポーツ関連事業の経済効果として、お話しておきたいことがあります。

それは、5年後の2020年に開催が決定している、東京オリンピック・パラリンピックについてです。

市では、このオリ・パラ東京大会の波及効果を、最大限に取り込んでいきたいという思いから、現在、スポーツ、宿泊・観光、医療分野をはじめ、市の利点を生かし、市を挙げて、オール鴨川でのキャンプや観光客誘致等の対策に取り組んでおります。

特に、オリンピック競技では、ヨーロッパではサッカーに次ぐ、メジャースポーツと言われる自転車ロードレース、また、パラリンピック競技では、人に優しいまちづくりに向けて、障害者スポーツの花形種目である、車椅子バスケットボールのキャンプ地誘致を実践しています。

このように、市では、県南随一を誇るスポーツ施設や宿泊施設などを有効活用しながら、オリパラ事前キャンプ、また、多くのスポーツ合宿等の積極的な誘致活動を展開し、地域経済の活性化に努めて参りますので、根本議員をはじめ、ここにいらっしゃる中学生議員の皆さんもこれらのキャンプやスポーツ大会などが開催されました折には、見学をはじめ、交流会などへの積極的な参加をいただきますようお願い申し上げます、私からの答弁とさせていただきます。

### ○進藤愛夏議長

以上をもって、まちづくりに関する質問・提案は、全て終了いたしました。

お諮りいたします。これにて鴨川市中学生まちづくり議会を閉会いたしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

### ○進藤愛夏議長

ご異議なしと認め、鴨川市中学生まちづくり議会を閉会いたします。

お陰様をもちまして、議長の大役を無事務めさせていただきました。皆様のご協力に感謝いたします。どうもありがとうございました。

---

### ○司会

会議の進行をお務めいただいた進藤議長、大変おつかれさまでした。

また、まちづくりへのご意見・ご提言をいただきました中学生議員の皆さん、ありがとうございました。

改めまして、中学生議員 19 名の皆さんに、盛大な拍手をお願いいたします。

それでは、進藤議員は自席へお戻りください。

〔進藤議員 自席へ移動〕

### ○司会

それではここで、辰野利文市議会議長より、本日のご講評を頂戴したいと存じます。

辰野議長、よろしく願いいたします。

〔辰野議長 登壇〕

### ○辰野利文市議会議長

みなさんおつかれさまでした。

講評ということでございますが、すばらしい中学生まちづくり議会であったと思います。

まずは、議長を務められた進藤愛夏さん。スムーズで公正な議事運営であったと思います。

議場内は、全て議長が取り仕切ります。たとえ長谷川市長であっても、議長の許可がないと発言することができません。そのような中で、明確に答弁者を指名するなど、最初から最後まで立派に議事を進行しており、すばらしかったです。

各議員のみなさんも、市内をよく見ておられるということが分かり感心しました。市長や教育長の答弁は納得のいくものだったのでしょうか。もう少し突っ込んで聞きたいと思っていた議員さんもいらっしやっただのではないのでしょうか。時間の都合で再質問が出来なかったことは、少し残念だったなと思いました。いずれにしても、ふるさと鴨川を愛し、より良くしていこうという気持ちが全面に表れていたと思います。これは、ふだ



んからこのまちのことを真剣に考えていることに尽きると思います。

先日実施された「中学生アンケート」の結果を見ますと、ずっと鴨川に住みたい、あるいは、一度は出てみずれば帰ってきたいという生徒が 60%を越えているという結果が出ました。本当にありがたいことです。人口減少問題をどう克服するのか、皆さんにこの鴨川へ永住していただくにはどうすればよいのか。正に本日皆さんが質問された事項が課題であり、市長や教育長からの答弁にあったとおりであります。すばらしい質問ばかりであったと感じました。

ところで、皆さんは 18 歳になると選挙権が与えられます。つまり、あと 3～4 年で投票する権利が発生するわけですが、被選挙権いわゆる立候補する権利は、参議院議員及び都道府県知事は 30 歳以上、それ以外は 25 歳以上であることが条件となりますが、これから勉強を積み重ねて、積極的に行政に参加をいただければうれしく思います。

終わりに、本日の会議を通して、中学生の皆さんが、真剣に鴨川市のことを考えていてくれることが分かりました。貴重な時間を共有できたことを感謝し、皆さんのこれからの活躍をご期待申し上げます、私からの講評とさせていただきます。

## ○司会

ありがとうございました。

続きまして、長谷川市長より中学生議員の皆さんへ、一言御礼を申し上げます。

〔長谷川市長 登壇〕

## ○長谷川市長

議長さんから指名をされたら、「はい」というしっかりとした返事、すばらしかった。保育園の子どもたち、幼稚園の子どもたち、小学校、中学校、高校、大学を含めると、鴨川には約4,500人を超える子どもたち、生徒さんたちがおります。

私は、常々、こんな生徒さんになってほしいなと思っていることが3つあります。

今申し上げた、名前を呼ばれたらしっかりとした返事ができる子、そして、朝のあいさつ帰りのあいさつといった、あいさつがしっかりできる子、そして、うれしいことがあったら「ありがとう」と感謝を表現できる子、こういう子になってほしいなと思っています。そうすることで、鴨川はもっともっとすばらしくなると思います。

本日は、皆さんからすばらしいご意見、ご提案をいただき感心をいたしました。私を含め、ここにいる市の担当職員もぜひ皆さんの声を実現したいと思っています。

しかし、物事にはどうしても限りがあります。一朝一夕に全てやりたいと思っても、難しい現状があります。そこで、市としては、今すぐやらなければいけないことは何か、10年先、20年先を見据えて考えていかなければならないことは何か、ということをしつかりと捉えながら、優先順位をつけてまちづくりを進めているところです。

そうした中で、来年度からは新しい総合計画がスタートします。そして、冒頭申し上げ



げました、地方創生についてもこれから考えていく必要があります。これらに当たり、皆さんの声をしっかりと胸に抱きながら、着実に進めて参りたいと考えておりますので、本日の会議のみならず、学校やご家庭など、色々なところの色々な人の声を聞かせていただくとありがたく思います。

改めて、本日いただきましたご意見、ご提案に心から感謝申し上げ、私からの御礼のあいさつに代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

## ○司会

ありがとうございました。

以上を持ちまして、鴨川市中学生まちづくり議会を終了させていただきます。

長時間にわたり、おつかれさまでした。

〔中学生議員 記念撮影へ〕